

第 2 回仙台市立病院跡地利活用に係る事業者選定委員会議事録

日 時 平成 28 年 7 月 6 日 (水) 10:00～11:00

場 所 仙台市役所本庁舎 2 階第 4 委員会室

出席者 選定委員：小野委員、加藤委員、須佐委員、高谷委員、徳永委員、飛松委員 (50 音順)
 事務局：鈴木市立病院次長、菅原市立病院経営管理部長、天野まちづくり政策局政策
 企画部長、大上市立病院総務課長、小椋市立病院経営企画課長、市立病院総
 務課職員

- 内 容
1. 開会
 2. 議事
 - (1) 事業者募集要項 (修正案) について
 3. その他
 4. 閉会

発言者	発言内容
委員長	本日の議事は、募集要項 (修正案) についてです。事務局から資料の説明をお願いいたします。
事務局	(資料 1、2、3 について説明)
委員	地域住民の方々がどのような意見をもっているのか、どこかで考慮されないものでしょうか。住んでいる方もいろいろな立場の方がいらっしゃると思いますし、意見もまちまちだと思いますが、委員会で評価していくなかで参考としてそういった意見を確認できるかいいと思ったのですが、いかがでしょうか。
事務局	地元の方がいろいろなご意見をお持ちであろうことは、承知しております。病院跡地に隣接する町内会を始め、直接利害関係が生じるであろう地域の団体の皆様方に対して、「病院跡地の利活用について、書面にてご意見をいただければ、選定委員会のなかでご紹介をします」といった形でご説明に回らせていただき、そのうえで、選定委員会のなかで「地域の意見はこのようものがございます」というものをご確認いただくといった対応ではいかがでしょうか。選定委員の皆様には、事業提案評価の審査基準(2)の部分が「地域と共生する取組み」になっておりますので、地域の方々から出された意見について、その項目のなかで総合的に勘案していただき、点数に反映していただくことで、地域の方々のご意見を反映していくことが可能かと考えております。

委員長	<p>予め住民の意見を求めておくということで、事業者からの提案に対して個別に意見を求めるということではないということですよ。例えば、公開審査という方法もないわけではないですが、公開審査の場合であっても傍聴ができるという程度の関わり方しかできないというのが一般的なのかと思います。事前に意見をいただいておりますので、地域住民としては、どういう心配があるのか、希望があるのか、そのあたりを選定委員で配慮していくという事務局からの提案かと思っております。よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>非常に難しい問題かと思っております。地域の意見をあまり重視しすぎると、何もできなくなってしまう。地域の意見を聞きながらも、「仙台市全体のためをひとつの目標にしておりますので」というところで、気は使いますけれど上手に収めないといけないのではないのでしょうか。</p>
委員長	<p>そのあたりのバランスをしっかりとっていただくと。住民の方にとって寝耳に水のようなことになると、実際のプロジェクトが始まった際に、反対運動が起こらないとも限らない。事前からの周知といいますか、このような形で審査しますよということを広報といいますか、地元で説明していただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>見え消しの資料2の14ページの下の方に、配点が10点の評価項目については、委員の裁量により、という一文があるのですが、ここの意味がよくわからなかったのですが。</p>
事務局	<p>配点の部分で、Aの場合は配点×1.0、Bの場合は0.6、Cの場合は0.4、Dの場合は0を配点に乗じて、得点を出すとご説明させていただいておりましたが、同じBやCであってもこちらの方が上や下というように、差をつけた場面も想定されることから、その対応が可能となるよう配点が10点の項目につきまして、Aの場合+はつけられないので、A-にはなりますが、B+とかC+という評価をしていただくことで、得点の調整をしていただけるようにさせていただきました。</p>
委員長	<p>たとえばBだとB+、B-などプラスマイナス1点できるということでしょうか。</p>
事務局	<p>AについてはA-という評価ができ、その場合は10点から1点減点になりますので、9点になります。また、B+やC+の場合は、1点プラスになる、という内容になっています。</p>

委員長	<p>B-だと、C+といっしょということで、8点だけない、という評価になるのですね。そうすると、1点刻みで点数付けられますよという形に近いですよ。わかりにくい表現なので、あえてこのように記載する必要があるのかなという気がしなくもないですね。</p> <p>また、事務局としては、あえてAとBは開かせておくことによって、差がつきやすくなるというような意図がある、ということですよ。</p>
事務局	<p>AとBの間は係数が0.4開いておりますが、A-とB+の評価ができるということで、C+とあわせて間に評価する区分ができますので、実際には4段階評価から7段階評価にさせていただきたい、という趣旨でございます。</p>
委員	<p>たとえば、Cの提案内容が標準的である、ということは普通だってことですよ。単純に見た時に、なぜ×0.4なのかと感じます。</p>
事務局	<p>事務局でも同じところで悩んだところがございますが、今回はまちづくりに資するようなご提案をいただきたい、ということで標準的な提案というよりは、より優れた提案を広く求めたいということもございまして、評価基準については、Cの標準的なものを×0.4、Bの優れたものを×0.6とさせていただいております。</p> <p>また、見え消し資料の13ページの中段あたりになりますが、「事業評価点が配点の6割（36点）より低い場合は選定しません」と記載させていただいております。これは、今回の選定にあたっては、ありきたりのものであれば選定しません、提案内容が優れているものより上のものでなければ選定しません、という意思表示となっております。</p> <p>ご提案いただく皆様方からは、配点の6割よりも上のご提案をいただけるものと思っておりますが、採点の幅を設けたいということもございまして、Cの標準的であるところを×0.4、優れているを×0.6とさせていただいたという経過がございます。</p>
委員	<p>Aの特に優れていると、Bの優れているの差が大きくなっていますよね。採点するときに、迷いそうです。Bの優れているは、少なくとも×0.7なのではないかと思うのですが。</p>
事務局	<p>そういったこともあろうかということで、今回B+と、優れてはいるけれども満点ではないよね、というものもあろうかということでA-を設けさせていただきました。</p>
委員	<p>今のご説明のなかで、標準的だという中身についてご説明がりましたが、</p>

	<p>基本的にはこの要項に沿った条件を最低限満たしているという意味合いではないかと思ったのですが。それであればCになると。最低限の条件を満たしていないようなものについては、Dになるという理解でよろしいですか。</p>
事務局	<p>必要最低限のものをクリアしていれば、標準的であると言えます。一方、優れているとは言えない提案は選定し難いと考えておりますので、事業提案評価点全体の6割を超えたものを選定させていただきたいと考えております。このことから各項目で、内容が優れているものをB評価で×0.6、標準的なものであれば選定は難しいということで、標準的なものをC評価で×0.4とさせていただきます。</p>
委員	<p>標準的という表現は使っていますが、あまり高い評価ではないということであれば、納得できるかと思えます。優れているか、特に優れているかという部分に関しては、評価した結果に差をできるだけつけようという意図があるかないかの違いではないかと思うのですが、プラスマイナスの評価をすることによって矛盾が生じるので、そこをどうするか。どれくらいの提案が出てくるかにもよりますが、なかなかAを付けづらいというときに、BのなかでB+があると、評価する当事者からすると、あってもいいのかなと感じました。</p>
委員長	<p>Cというものが最低基準で、それよりも評価すべき点があればBになる。Aは飛び抜けていいというもので、点差をつけたいという意図があるもの。だとすれば、Aについて-1はしない、その代わりBは5、6、7点の3段階あるということにしてはどうか。Aにマイナスをつけるかどうか。</p>
委員	<p>AとBの点差がありすぎるため、点をつけるときに困らないでしょうか。</p>
事務局	<p>当初の趣旨としては、特に優れているという提案を出していただきたいという私どもの強い希望や、少なくともB以上の優れた提案を誘導したいということもございました。一方、いくつかの提案があった場合には、やはり差をつけなければならないという事情もございますので、今回その線を崩さない範囲で、ランクを設けさせていただきました。</p>
委員長	<p>これだけの項目数もありますので、全項目でBをとることは、結構難しいような気がします。メインのところでもいい点がとれたとしても、地域との協力や地域防災などの項目は、ありふれた提案しか出てこない可能性が高いのではないのでしょうか。となると、総合で6割とるとするのは結構厳しいかなという気もします。そういうことも考えると、Bの配点を7点にしておいて、</p>

	<p>プラスマイナス1点とすれば、Bは6、7、8点。Aが10点、Cが4点ということで、1点ずつのギャップは生じるので、差はつくのではないかと思います。</p>
委員	<p>Bは0.7でも相当差はつきますよ。AとBでものすごく迷うのではないかと思います。優れているのか、特に優れているのかで0.4も違ってしまう。Cは普通で0.4で納得でも、Bは0.7にすべきではないかと思います。</p>
事務局	<p>委員のみなさまのご意見として、Bは0.7の方がよいのではないかとのことでしたので、そのように調整させていただき、配点はそのままで、Aの場合には掛ける係数が1.0、A-の場合には0.9と、B+の場合には0.8、Bの場合には0.7、B-の場合には0.6、C+は0.5、Cは0.4、C-は0.3ということで、係数を0.1ずつ調整していくこととさせて頂きたいと思います。</p>
委員長	<p>10点のなかでどう配分するかというのは、Aが10点、Bが7点、Cが4点と決めてはおくのだけれど、実質10点あるわけだから、それを1点刻みで使っていいよということにつけさせてもらうほうが楽というか、基準としてAは10点、Bは7点、Cは4点とっておくのだけれど、その中間の点もつけられるというのを、明示的にはないのだけれど、評価シートに目盛りはふっておくと。ただ、10点のところAと書いておいて、7点のところBと書いておくというような形で点数付させていただくと、委員としてはつけやすいかなと、いう感じがします。</p>
委員	<p>B評価の優れているを0.6から0.7にした場合、配点の6割の36点で足切りにするということについては、36点ではなくて、42点で足切りをすると、そちらも上がるとお考えでしょうか。そのあたりご意見を伺いたい。</p>
委員長	<p>全部Bをとるのはかなり難しいと思いますので、Bの基準点を0.7にあげたとしても、足切りラインは36でいいのではないかと思います。</p>
委員	<p>全体のなかで6割は一定の合格点内、プラスマイナスあってそのなかで6割を取れば一次合格だよという形で委員長は理解されているということわかりました。</p>
委員長	<p>繰り返しになりますが、地域との連携の項目とかですね、みなさんが優れていると思えるような提案が出てくるか、若干懐疑的なところがありまして、こういうところがCにならざるをえなかつたりするのではないかとということで、ラインについては、Bを0.7にあげたとしても、36点でいいのでは</p>

	ないかと思いました。
事務局	見え消し資料2の14ページに、採点方法が表になってございます。A～Dの得点について、配点部分を変えない、配点を掛ける係数がございますけれど、その係数でAについては1.0、Bについては0.7、Cについては0.4、Dについては0とさせていただきますつつ、AについてはA－、BについてはB＋とB－、CについてもC＋とC－というプラスマイナスをつけさせていただくことで、よりきめ細かな採点をしていただけるような採点案にさせていただくということ、13ページの中段で事業提案評価点は配点の6割、36点より低い場合は選定しないというところは変えないままで、というところでおまとめいただきつつあるのかなと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。
委員長	標準的であるというのをどう位置付けるかだと思います。なんとなく60点がぎりぎりの合格ラインという観点で見ると、そこそこの提案があれば6点つけるのかなと思っちゃうと、みんなB以上になっちゃうのですけど、そこは厳しく、ごく普通の提案であればもうそれは4点しか取れないという共通認識をもっていただければ、点差はつけられるのかなとは思いますが。
委員	どうしても採点する方の立場で考えますので、Bを0.7にさせていただければ各得点がありますので、非常によろしいと思います。あとは、各委員の標準的な考えを統一して採点しましょう。そういうことだと思います。
委員長	実際のプレゼンの場合もトップバッターの点数をどうつけるかが、すごく悩むと思います。そこがひとつの基準になると思いますので。採点のときにそこで一度出したとしても、全部聞いてみるとまたちょっと修正したいということも出てくるかもしれませんし、あるいは他の方の意見を聞いたらまたちょっと評価が変わるということも出てくると思うので、実際のプレゼンを聞いた後、また点数をどうするかは大変だと思います。
委員	一番最初のプレゼンで、まあまあこんなもんかな。次々聞いていったら、まあまあこんなもんかな、よりもいいのがひとつもなかった、こうなると、一番最初のもをもう一回見直すことになってしまう。こういうものでなくても、みんなそうですけど。
委員	私もいろんなところで採点をやってきて思うことは、同じでございます。採点のときに、お二人がおっしゃったレベル合わせという、委員間でどこが標準であるのかを定めるプロセスだとか、最初のプレゼンが終わって採点終了

ではなくて、最後のプレゼンが終わってから改めて協議の場を持っていただくとか、事務局側でタイムスケジュール案のようなものをつくっていただきたいと思いました。それで委員会でも議論させていただくことでいかがかと思いますが、いままだ何も見ていないなかで、そのあたりやるのは難しいなと思っております。みなさまからいろいろとお話のあった採点の手法でしょうかね、点数の置き方とかそういうことなかで、了解をとったうえで実際の採点のときには、具体の手法の議論をまたいただき進めていただくと。お話を聞いていて、随分先の話も出てきたなと思いましたので、そんなことも考えていただくとありがたいのかなと思います。

委員長

実際に出てこないとわからないところがありますし、だいぶ先の話でもあるのですが、これが要項として公開されますよね。こういう形で採点しますよということがね。そういう意味で、※印の書き方をどう書くかというのは微妙なのですが、これを標準として多少調整が入るよ、というところは委員のみなさん方としては、そういう調整ができるようにしておいた方が採点しやすいということかと思います。おおむね、先ほどまとめていただいたような配点ということになると思いますが、表現については事務局で考えていただいて、ここはまとめておきたいと思いますがよろしいでしょうか。

ここがおそらく一番重要なところになっていくと思いますので、そのあたりの認識というのをある程度共有できたのかな、ということでございます。今の部分が若干修正になるということでございますが、その修正案をもって公募に移ることになろうかと思いますが、よろしいでしょうか。

(一同了解)

若干の修正がありますので、そこの部分の確認だけ委員長として私の方で確認させていただくということで、よろしいでしょうか。

(一同了解)

本日の議事は以上としますので、進行を事務局にお返しいたします。